



## 防犯教室を実施しました

# 前途洋々

7月3日（木）の業間の時間に、本年度の防犯教室（不審者侵入想定避難訓練）を実施しました。もちろん、こんなことは起きてはなりません、保護者を含め、外部から来られた人たちには常々目配りをするようにしています。また、普段見かけない方々には声をかけることを心がけています。また、万が一のときは、不審者を校舎に入れないように時間を稼いだり、児童が安全な場所に待機したりできるような動きを徹底させたりすることが必要です。短い時間でしたが、警察から講師をお招きし、緊張感を持って取り組みました。意識を高める訓練となりました。（写真左：入口にバリケードを作る練習、右：宇城警察署のスクールサポーターの方に講話をお願いしました）

（写真左：入口にバリケードを作る練習、右：宇城警察署のスクールサポーターの方に講話をお願いしました）



## 6年国語で研究授業を実施しました～「風切るつばさ」

7月2日（水）の校内研修では、6年国語「人物どうしの関係について話し合おう『風切るつばさ』」を使った研究授業を実施しました。講師として、宇土市立網津小学校の教頭先生である下中先生をお呼びしました。下中先生は、旧郡浦小校区のご出身です。

さて、「風切るつばさ」の主人公はアネハヅルの“クルル”。ある日、群れがキツネに襲われてしまい、幼い仲間の一羽が命を落とします。“クルル”はいわれなき怒りを仲間から向けられ、クルルが羽ばたいたせいでキツネに襲われたということになってしまいます。クルルの心情描写が分かりやすく展開されていきますが、生きる気力を失ったクルルは、仲間の“カララ”との関係を軸に。最終的に生きる力を取り戻します。

本時のめあては、「なぜ、クルルは再び飛べるようになったのだろう」というもの。文中には、このことについて考える根拠となる描写がたくさんあります。子供たちはその描写をもとに自分の考えを整理して表現し、さらに、友だちとの対話によって自分の考えを広げていく、という流れになっていました。子供たちは、こちらの期待を大きく上回る多様な意見、子供たち自身の表現を多く出してくれました。ペアでの話し合いもかなりうまくできるようになっています。とても楽しく、見応えのある授業でした！



まずは、教科書から根拠となる叙述を探し、主張としてまとめます。

ペアで考えを交流し、必要に応じて自分の考えに加筆・修正を加えます。

授業の最後の「振り返り」。タブレットを使って学びの振り返りを記録し、蓄積しています。

授業後の授業研究会も様々な意見が出て盛り上がりました！

